

令和4年度

公益財団法人名古屋みなと振興財団
事業計画書

令和4年度事業計画書

令和4年3月31日に指定期間が満了する本財団が管理する名古屋港水族館（指定期間8年）、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ及びガーデンふ頭臨港緑園の各施設（指定期間4年）について、新型コロナウイルス感染症による昨今の社会状況に鑑み、名古屋港管理組合との協議の結果、選定手続が1年延期されることとなった。

このことにより、令和4年度は、名古屋港水族館の3期目、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ及びガーデンふ頭臨港緑園の各施設については、4期目の指定管理者として運営を行う最終年度となる。新型コロナウイルス感染症対策の徹底など、これまで以上に、施設の安心・安全、公平・公正な使用及び管理運営の効率化を推進し、より柔軟で、きめ細かなサービスの向上を目指していく。また、名古屋港水族館については、開館30周年となることから記念事業を実施するなど、更なる施設の魅力向上に努めていく。

これまでの新型コロナウイルス感染症感染拡大での経験を踏まえ、名古屋港における海事思想の高揚と海洋文化の普及に努め、併せて観光事業の振興を図るとともに、名古屋港の発展により一層寄与することができるよう、次の各事業を行う。

1 公益目的事業

(1) 海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

① 指定管理施設（名古屋港水族館）を活用した海洋生物の展示等

海洋生物の展示を通して海洋文化にふれあう場を提供する。

展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境の管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者等による解説活動やモニター、ライブカメラを用いた動画での生態・行動等の解説を積極的に行い、来館者への海洋文化の普及を促す。

また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として接触型から非接触型への展示に改良するなど、飼育展示の水準の維持を図る対策を実施する。

シャチに関しては、平成29年度からメインプールで「シャチの公開トレーニング」を実施しているが、生物の状況によりメインプールに出せないこともあり、メインプールでの実施割合をより多くするために、シャチの健康維持により心掛けるとともにトレーナーのスキルアップを図る。

なお、シャチ「ステラ」については、令和4年3月末で賃貸借契約が期間満了となるが、

鴨川シーワールドより当面1年間、飼育委託の要請があったことから、引き続き3頭での飼育展示を継続する。

さらに、令和2年5月にオープンした南館3階の常設展示室「エコ・アクアリウム」では、海洋環境に関する啓発に努めていくとともに、愛知県、名古屋市等と連携を図りながら、SDGs（持続可能な開発目標）に関する理解の促進も行っていく。

一方、特別展については、開館30周年事業として、開館以来実施してきた特別展において、好評であった展示を再現するとともに、開館以来飼育を継続している長寿生物の紹介など、魅力ある展示を実施する。加えて、新型コロナウイルス感染症感染拡大による入館料収入の減収を受けて、令和2年度に開始した生き物たちの暮らしを応援していただくカプセルステーションを使った募金や昨年度に開始したクレジット決済による寄付金の募集など、新たな収入確保の取組についても、引き続き積極的に取り組んでいく。

② 体験プログラムを通じた海洋文化の普及

小中学生を対象とした水族館内でのスクール、広く一般を対象とした体験イベント、講演会など、主に水生生物に関する知識を深めるため、「君もドリトル先生になれるか!」、「ナイトウォッチング」、「お泊り水族館」、「もっと知りたいダーウィン教室」等の体験プログラムについて、新型コロナウイルス感染症対策を施して実施する。

③ 指定管理施設（名古屋海洋博物館・南極観測船ふじ等）を活用した海事に関する展示等

これらの施設において、所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想の普及を促す。名古屋海洋博物館においては、船やガントリークレーンの本格的な操縦体験を行えるシミュレーターなどの体験型の展示や、スマートフォンによるモバイル解説、オンライン動画配信サービスを活用することにより、より高い学習効果の向上に努めていく。

名古屋港ポートビル2階回廊ギャラリーにおいては、無料で利用できる市民ギャラリーとして、海に関する作品や、海に関わる人々の作品を展示する。

また、SNS（フェイスブック、インスタグラム）を用い、展示物の紹介等を積極的に行うことにより、海事思想により興味を持っていただき、港そして海をより身近なものとして感じるよう認知向上を図っていく。

④ 体験プログラムを通じた海事思想の普及

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるため、「星空観察会」、「南極教室」、「工作教室（ペーパークラフト、3D立体カード製作）」、「ボトルシップの製作講座」等の体

験プログラムについて、新型コロナウイルス感染症対策を施して実施する。

また、南極観測船ふじでの南極に渡った動物たちを題材とした特別展については、新型コロナウイルス感染症感染防止のため令和2年度より繰り越したが、感染症対策を施して実施する。

⑤ 機関紙等による情報提供

名古屋港水族館機関紙「ニューズレターさかなかな」、生物情報誌「新着！海の生き物レター」等をタイムリーに発行し、詳細に野生動物や水族館に関する情報を提供する。作成した製作物は、関係諸機関及び購読希望者に送付するとともに、館内配布により来館者に提供する。

また、学習教材「かんさつノート」を発行、配布するとともにダウンロード版のワークシートも合わせた運用で幅広い活用を促す。

⑥ 学生の職場訪問等の受入れ

中学生を対象とした職場訪問・職場体験、学芸員課程を履修している大学生を対象とした博物館実習などを受け入れ、名古屋港水族館及び名古屋海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施し、また、学校団体等へのレクチャー、大学への非常勤講師の派遣を実施することにより、海洋文化及び海事思想の普及を図る。

本財団職員が執筆した名古屋港水族館のウミガメに関する教材が教科書「ひろがる言葉、小学国語 4下」（教育出版）に掲載され、平成28年度から名古屋市立の小学校で採択されていることを受け、教員の事前学習や児童へのレクチャーを積極的に誘致する。

なお、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、オンラインによるレクチャーも要望に応じて実施していく。

⑦ ボランティアの育成、活用

名古屋港水族館において、展示生物の解説、スクールなどの補助といった教育普及業務を行う解説ボランティア制度を導入している。この制度は、ボランティアへ行う研修や彼らが行う解説活動などを通して彼らの自己啓発や自己実現という生涯教育の場を提供するとともに、習得した知識・解説スキルを用いて来館者へ興味・感動を呼び起こすことを目的としている。

解説活動は、南館「タッチタンク」、「ウミガメ回遊水槽」、「ペンギン情報コーナー」や北館「進化の海」など7か所を対象とし、ボランティア及び来館者へ海洋文化の普及を促している。現在は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、一部の解説のみ実施して

いるが、感染状況等に鑑みながら再開を目指していく。

また、名古屋海洋博物館・南極観測船ふじにおいては、展示解説などの教育普及業務及び南極観測船ふじの塗装等の修繕を行うボランティア制度を導入しており、これらを通してボランティア及び来館者への海事思想の普及を促していくが、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、感染状況等に鑑みながら再開を目指していく。

⑧ 海洋生物等の調査研究

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施する。

特に鯨類に関しては、新たに令和2年4月から開始した三重大学大学院生物資源学研究科附属鯨類研究センターとの「シャチの繁殖と健康に関する研究」を軸として、繁殖による展示生物の安定的な確保に向けて、技術開発を継続して進める。

また、名古屋港内に冬季に来遊し、水産資源保護法で管理されている小型鯨類スナメリの生息数調査を大学や名古屋市内の専門学校と共同で取り組む。平成29年度まで実施した調査を元に平成30年度後半から港内全域での本格的な調査を開始した。令和4年度も継続して調査を実施し、生物学的な基礎研究を進め、その研究成果の紹介に努める。調査費用に関しては外部の研究助成金に積極的に応募する。

(2) ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

① 名古屋港観光施設協議会の運営事業

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等からなる名古屋港観光施設協議会を通じて、相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進PR、誘致営業・宣伝事業等を行う。

観光キャンペーンの一環として、観光展「ゴーゴー名古屋港！」を実施するほか、県内外の幼稚園始め学校関係者及び国内旅行やインバウンドを取り扱う旅行代理店等への訪問や聞き取りなどを行い、誘致営業、PR事業を行う。

② 情報誌の発行

名古屋港の観光施設の情報を掲載した「名古屋港水族館とガーデンふ頭の観光案内 すいぞくかん便り」を発行し、名古屋市営地下鉄の各駅を始めとした各所に配布するほか、名古屋市内の全児童に小学校を通じて配布することにより、名古屋港の観光情報を発信し、来港者の増加を図る。

また、この他にも「名古屋港ガイドマップ G o G o 名古屋港」等を発行し、配布する。

③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関連機関が主催するイベントや観光推進事業等に参加し、協働して観光振興とPRに努めるとともに、観光施設等関係者との連携及び情報の共有化を図る。

また、名古屋市交通局と連携し、市営交通機関利用者に対し、本財団の施設入場料の割引を行うことにより、公共交通機関の利用促進とともに来港者の増加を図る。加えて、名古屋を始めとする近隣地域のホテル・旅館に「名古屋港水族館パートナーシップホテル」として登録していただき、ガーデンふ頭諸施設の情報等を提供し、積極的な誘客に努める。

④ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）を活用したイベントの開催

ガーデンふ頭地区においてイベントの実施、誘致を通じ、港に賑わいを創出し親しまれる港づくりを推進する。

また、新型コロナウイルス感染症の感染状況等に鑑みながら、「名古屋港開港祭フレンドリーポート」、「ガーデンふ頭新春イベント」等を実施するとともに、「港区区民まつり」、「名古屋市消防出初式」等のイベントを積極的に受け入れる。

2 公益目的事業以外の事業

(1) 管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機の運営や北館3階の大型映像装置を使用したパブリックビューイングなど「名古屋港水族館の営業時間外利用」を促進するとともに「名古屋港水族館法人サポーター会員制度」により公益目的事業を補完する。

(2) 船員宿泊施設の運営事業

船員宿泊施設である名古屋船員会館（ハーバーロッジなごや）を運営することにより、船員はもとより来港者の宿泊を促し、観光事業振興の一助とする。